

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771700907		
法人名	株式会社旭看護婦家政婦紹介所		
事業所名	旭グループホーム		
所在地	三豊市高瀬町上高瀬町5388番地262		
自己評価作成日	平成27年07月07日	評価結果市町受理日	平成25年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiryousoCd=3771700907-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成27年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様にとっても、ご家族様にとっても、近隣の方々にとっても、当方職員にとっても、安らぎと、憩いの場でありたいと、常にスタッフ一同 “おもいをつ” にして、励んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点】

<p>職員間でお互い話しやすい環境である。職員はそのような中で、利用者の気持ちや想いを引き出すために、利用者の表情、しぐさをよく観察したり、よく聴き、利用者主体に話し合い、介護に反映している。</p> <p>事業所は「重度化した場合における(看取り)指針」を整備している。重度化や終末期のあり方について、利用者・家族等と話し合い、看取りの介護を希望する人には説明し、同意書を交わしている。看護師を4名配置しており、協力医療機関の医師との連携は、24時間体制で連携がある。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員の合議により、決定した理念を毎朝唱和・意識統一し、その日の実践のスタートとしている。理念「1. ご利用者皆様が旭の家族として楽しく幸福な日々が送れるようお手伝いします。2. 地域の方々とともに豊かで活力あるグループホームを目指します。」	職員は、利用者の気持ちを大切にし、家族として安心して過ごせることを目指している。理念は、開設3年後に、職員が意見を出して見直ししており、サービス提供の拠り所となっている。職員会で、利用者の気持ちや特技を大切にする対応等を振り返ったり、日々の実践の中で職員間で注意し合うなど、理念を具体化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方々との交流を大切にと、なるべく出かけて行って、清掃等の行事に参加している。「旭ふれあい祭り」には近隣の方々を招くなどしている。	自治会に加入していないが、職員は利用者が地域と繋がりが持てるよう、自治会に事業所の想いを伝えたり、地域の清掃活動に積極的に参加している。市や地域の行事への利用者全員が参加できるよう支援している。大正琴等のボランティアによる演奏がある。「旭ふれあい祭り」に、近隣の人を招き、婦人会の桜餅づくりの応援がある等、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族を抱える方々に、相談所として門戸を開いている。又、現場見学や現場実習の場所として、協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員さん達より、情報を頂き、実践した結果を報告したりしながら、サービスに反映させている。開催頻度2カ月に1回	前回の外部評価で、多様なメンバーの参加の必要性を指摘され、地域の市議員や消防署職員の参加を実現した。会議では、利用者の状況報告や行政から認知症を理解する講演会等の案内、サービスの実際や外部評価結果について話し合うなど、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	可能な限り出かけて行き、連携をとり協力し合っている。地域包括支援センターの委員さんの仲介が、功を奏している。	市担当者に介護保険の説明を受けたり、事業所の介護状況を伝えたり、市が主催する講演会に積極的に出席し、相談し易い関係を築いている。また、複数担当課から入居状況の相談があったり、事業所の行事等を情報を提供し、必要な用具を借用するなどの協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置している。ご家族と、相談しあいながら、配慮している。(安全の確保と誤認しないため)	全職員が身体拘束防止委員会のメンバーであり、職員会議で身体拘束による身体的・精神的苦痛や拘束をしないケアの意義を理解し、拘束しないケアの実践に努めている。利用者の状況により、センサーマットの活用やベッドでなく、マットレスを使用する等の工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各機関の諸研修に参加し、学んだ事を職員会議で報告。情報を共有し、お互いに注意を払いあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に入居されていた利用者が成年後見制度を活用しており、支援を行った。研修等に参加し、知識を得ていたが、当時知り合った司法書士の方に、依頼・相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分納得がいくまで時間をかけて、説明につとめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしている。家族会や来訪時の、ご家族との対話の中に、接点を大切に聞き取りしている。	利用者の要望等は、生活の中で表情・行動や言葉と身振り等で確認している。家族からは面会や料金納入時にお茶を出し、話しやすい場を作り、要望等を聴いている。行事や年末の交流時に、家族会を開催し、サロンの雰囲気の中で意見・要望を聴き、利用者主体に考え、運営に反映している。また、外部に意見を出せることを説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で、職員の意見や要望の把握に努めている。個別懇談も実施している。	毎月の職員会議には、管理者を含め職員が全員参加し、職員が意見や情報を発言する機会を設け、職員全体で話し合い、運営に反映している。また、管理者が職員との個人面談を実施し、処遇改善や行事の実施方法等について、提案や業務の課題を素直に話せる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者が、代行している。無理なく働いて頂き、休養も充分取れる様計らい、各人の仕事量も考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	種々の機関において開催される研修を周知し、希望者あるいは推薦者にチャンスを提供し、研修費も援助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	西香川病院、三豊介護サービス事業者協議会等と、ネットワーク作りをし、職員が交代で、参加交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	西香川病院との、連携による入居が、ほとんどなので、入院時より、見舞い交流し、ご本人との関係を信頼関係に構築し、深められていると、自負している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	西香川病院の医師、スタッフ等を交えて充分話し合う様勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りを重視し、とにかく充分話し合いの時間を取る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あらゆるコミュニケーションを駆使して、対等の状況を模索している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連帯意識を大切に、ご家統と交流を深めている。対話が大切と思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	文化祭や敬老会、秋祭りなどの地域で開催される行事に出かけ、馴染みの人達と会える機会を作る努力をしている。同級生、近隣の方、親類、縁者方々の訪問が多く、サロンとしての、役割をしている。	利用者の馴染みの人や場所については、入居時に家族から把握したり、入居後事業所を訪問した同級生や近所、親類の人から把握している。同級生や親類の方の訪問時は、各利用者と気楽に話せるようサロンの支援をしている。地域の文化祭や秋祭り等行事への参加を支援している。カラオケ好きな利用者が、チャリティーカラオケ発表会を聴きに行くための外出支援をするなど、関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各人の個性を生かしながら、共に同じ楽しみを共有できるよう仲介している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	催し(旭ふれあいまつり等)の案内をしている。10年来、来訪されるご家族さんもおられる。又、親子2代にわたり、お世話させて頂いた方もおいでる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	とにもかくにも、傾聴と観察を、常に念頭においている。	利用者の思いや暮らし方の希望等は、常に利用者の表情やしぐさを観察しておき、利用者一人ひとりからよく聴き、確認しながら引き出している。把握が困難な場合や不確かな場合は、家族等からの情報を確認しながら、利用者の視点で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在住していた近隣の方々やご家族、又は本人から充分情報を聞き取る事になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の連携をベースにスタッフが意見を出し合い把握につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り時と、職員会議における、各人の処遇を話し合う場を持ち、それにあてている。	入居時には介護支援専門員が仮の計画を作成し、利用者の状況や意向を確認し、アセスメントし、申し送りや職員会議で利用者・家族の要望や職員の気づき、アイデアを反映し、介護計画を作成している。計画は利用者・家族に説明し、同意を得ている。常に実践状況を評価し、支援経過を1週間毎に記録し、3カ月毎にモニタリングをしている。介護計画の見直しは、3カ月毎や利用者の状況変化時等に、全職員がそれぞれ利用者を担当し、モニタリングを基に介護計画を見直し、管理者が確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の読み取りと、聞き取りを充分に出来る様、目を通し改善の繰り返しで向上につとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の癒しの場、地域の方々のサロンの役割が果たせる様につとめている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の演技発表の場を提供しながら、楽しませて頂く、又ご指導頂き、習字を学び充実した生活の糧となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	西香川病院医師との連携は24時間対応可能で、お互いの連携を充実させている。	入居時までの受診状況を把握している。協力医療機関からの入居が多く、入居後も認知症の診療に関わる協力医療機関の受診を希望している。職員が受診支援し、適切な受診に向け、利用者の状況を医師に報告している。受診結果は、家族には電話報告し、職員は申し送りで共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当方の看護師とは、言うまでもなく西香川病院の看護師さん達との連携・情報交換は大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	充分行なっていると、自負している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かなり、レベルの高い看取りが出来ている。家族との話し合い、医師の説明を加味しながら、進めている。充分、話し合い、書面にて契約を交わし、看取り支援連携体制を構築して、進めている。	食事摂取状況、日常生活動作、バイタルサインの状況等の変化により、重度化や終末期のあり方について、利用者・家族、医師・職員と話し合い方針を共有している。事業所は「重度化した場合における(看取り)指針」を整備し、終末期介護を希望する人には説明し、同意書を交わしている。看護師を4名配置し、協力医療機関の医師との連携は24時間対応可能で連携体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成している。三豊地域の救急隊員さんを迎え、救急訓練を実施し、備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当方のマニュアルを作成し、常に熟知しておくよう各員意識統一しながら、備えている。年1回の火災・救急訓練を実施している。緊急連絡網も構築している。地域との協力体制は常に地域に発信し、お願いしている。	年1回事業所の異なった出火場所や昼間を想定(山火事も想定)し、火災訓練及び救急訓練(呼吸法やAED使用の訓練)を行っているが、夜間想定や地震時の訓練までには至っていない。火災時職員だけの避難誘導には限界があり近隣に協力依頼しているが、近隣は1軒だけで、具体的支援内容の周知までには至っていない。アルファ米、水、カップラーメン、ヘルメットを揃えている。	夜間は職員1名だけの勤務で、災害時の対応には限界がある。連絡、初期消火、利用者一人ひとりの状態を踏まえ、避難誘導等が慌てず確実にできるよう、夜間想定訓練も望まれる。また、地震時の避難誘導訓練が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ付き個室の設定であり、カーテン等の補助にて、プライバシーは守り、対応は、スタッフが、お互いに戒めあいながら、配慮している。	利用者の尊重とプライバシーの確保を、職員間では利用者の尊厳と権利を守るための基本であると考え、常に利用者への対応を確認したり、職員会議で話し合っている。特に、想いをくみ取ったり、尊重した言葉かけや対応をするよう、注意しあっている。また、実践者研修への参加や事業所内研修で理解、認識を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いの聞き取りと、希望の実現に配慮している。寄り添う支援を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望はその都度確認しながら、対応に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性に合わせ、本人と相談しながら、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「何が食べたい」かの希望を常に把握し、できる利用者の方には野菜の皮むきなどの下ごしらえをお願いし、それを食する意欲をそそるように計らう。	食事メニューは、1ヵ月等の長期間の作成ではなく、日々の生活の中で、「何が食べたい」かを問いかけし、希望する献立を提供するよう努めている。食事の準備ができる利用者は少なくなったが、利用者にとってできることを聞いたり、作業の実際を見て、可能なことを見極め、言葉かけをして、下ごしらえ等をお願いしている。職員は利用者と一緒に食事をし、テレビの話題等を話しかけながら、食事が楽しいものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をしっかりと取り、その共有により、連携をしっかりと取り、摂取への配慮を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度歯科医師の診察がある。日々食事ごとの口腔清潔への支援を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各室に、トイレが設置されているので、誘導時には、トイレにての排泄を心がけている。	排泄の自立は、トイレで便座に座っての排泄を目指している。利用者の生活行動、排泄時の手・足の動きや範囲を観察や会話の中から、排泄が困難な要因を確認しながら、支援している。利用者の排泄は、できるだけ本人の尿意の訴えを待ち、各居室のトイレへ誘導することで、落ち着いて排泄できるよう支援している。誘導や排泄介助、失禁時の対応は、羞恥心・不安を軽減するよう努めている。失禁時は、被覆材を使用し、皮膚の清潔や安全に配慮しながら、支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の処方による薬を駆使しながら、食事の献立における工夫等にて、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルの安定を確認し、本人の意向を確認し、ゆったりと流水式の風呂を楽しんで頂き、前後の水分補給においては、ご家族の作られた甘酒等もあり、寛ぎと清潔を味わっていただける。	2日に1回入浴としているが、毎日入浴の準備をしているので、必要な時に入浴ができる。利用者の希望や、入浴を拒否する時は、タイミングを考慮し、入浴を勧めている。入浴前には、バイタルサインの安定や体調を確認し、流水式の風呂で、ゆっくり入浴を楽しめるよう支援をしている。入浴介助時は、恐怖心、抵抗感等に注意し、異性介助時は、羞恥心に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご家族と三位一体にて、部屋作りが出来ているので、落ち着きご自分のリズムで、終日すごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常的に、西香川病院と連携が密であるので、情報状況を確認し合っており、当方職員も熟知しており、常に記録の伝達にも、配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族、近隣の来訪者から、情報を得て、その人その人の希望の実現につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事、季節の行事は、総力を持って、希望の実現につなげている。季節折々の外出、外食を楽しんでいる。地元の食事処も協力して下さる。	外出は、気分転換やストレス発散につながると考えて支援している。民生委員からは地域の行事、運営推進会議のメンバーからは市内の行事等の情報を得て、健康フェスタ等に参加している。季節折々に菖蒲、蓮の花、紫陽花等の花見や利用者の希望で外食(うどん)などに、全員が外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者とのトラブルのリスクがあるため、施設で立て替えて、買い物等行なう様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族・友人・親類への電話は仲介支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感への配慮、環境整備には配慮している。各人一日の大半をリビングで過ごされているのを見受けるに、居心地が良いのであろうと察せられる。	玄関、リビング、廊下等の床は清拭され、清潔で心地よさを感じる。リビング、食堂は床暖房が整備されており、リビングには座って団らんができるよう、畳のコーナーが設けられている。リビングのテーブルは、利用者全員がテレビを見やすいように配置し、壁には外出時の利用者の写真や作品を掲示している。生活感、季節感を取り入れて、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関横にソファやベンチを設置し、一人、又は仲の良い人とそして、家族と過ごせる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた、居心地の良い部屋作りはご家族、本人、当方が三位一体で本人の想いの実現を、目指している。	居室にはベッド、クローゼットを整備している。また、洗面台、トイレを設置し、利用者が落ち着いて洗面や排泄ができる。利用者によっては、使い慣れた整理ダンスや引き出し式整理ケースを持参し、衣類を整理している。また、可愛い縫いぐるみや子どもや孫の写真を飾ったり、壁に自作のカレンダーや作品を飾るなど、住み慣れた部屋や家族を思い出せるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の希望はその都度確認しながら、対応に配慮している。環境整備は、常常、職員相互のチーム連携を、駆使しながら行なっている。		